

令和6年度

事業報告書

社会福祉法人氷見市社会福祉協議会

令和6年度氷見市社会福祉協議会事業報告書

★…令和6年度新規事業

担当部署	分野	事業名 (◆重層的支援体制整備事業関連事業)	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
総務・企画課	法人運営	市社協役員会・委員会の開催	理事会、監査会、評議員会等を開催し、市社協の運営について協議した。その他、専門部会及び各種委員会を設け、より専門分野について協議した。	○		
		市社協役員研修会の開催	市社会福祉協議会の使命と役割について、役員間の情報共有を目的に研修を開催した。	○		
		市社協会長表彰・かがやき賞・感謝状贈呈式典	地域福祉活動・ボランティア活動実践で顕著な功績があった団体・個人を表彰した。併せて寄付における感謝状を贈呈した。(1月25日)	○		
		地域福祉推進計画推進研修	市の第4次地域福祉計画及び市社協地域福祉推進計画に掲げる目標や重点施策の実現に向け、組織基盤の強化、社協の機能強化を図るための研修を開催した。(3月3日)	○		
		★福祉の魅力発信プロジェクト (富山県介護の魅力PR事業)	市内の福祉事業を実施する法人と連携し、介護や福祉の仕事の魅力を発信した。		○	
		地域福祉総合相談 →ほっとねっと社協	市民のあらゆる悩みごとの相談に応じ、必要に応じ関係機関と連携し、市民の生活課題の解決に向けての支援を行った。	○		
	地域福祉研修センター	地域福祉研修センター氷見の運営	氷見の地域福祉実践の検証と地域住民、専門職の取り組みについて検討することをねらいに、県内・県外の福祉専門職を対象とする研修企画、福祉系大学の専門職養成の実習と医療、教育関係者の実習の受け入れ及び視察研修等の受け入れ調整等を行った。	○		○
		介護サービス従事者研修の開催	市内の介護サービスに携わる職員の資質向上を目的に各種研修会を開催した。	○		○
		市民講座の開催	「地域共生社会の実現」に向け、「相続」をテーマに講座と相談会を開催し、市民の福祉への関心を高めるとともに、支援が必要な住民の早期発見、今後求められるサービスや事業の開発に向けた理解・啓発を図った。(3月8日、3月15日)	○		○
		★4市合同地域福祉実践研究会	愛知県半田市、長野県茅野市、三重県伊賀市の各市社協及び行政の職員による合同研究会を開催した。(1月25日～26日)	○		○
		都城市社協人事交流職員育成事業	職員の育成並びに新たな地域福祉実践プログラムの開発、研究に取り組むため、都城市社会福祉協議会との人事交流を行った。(2月6日～14日)	○		
		市社協職員研修の開催	社協職員の資質向上を目的に各種研修会を開催した。	○		
		福祉専門職養成実習の受け入れ	県内外の福祉専門職養成学校等における社会福祉士、介護福祉士の実習を受け入れた。	○		
	その他	共同募金委員会の運営	地域福祉の推進のため共同募金委員会を運営し、共同募金の配分事業の募集及び配分事業の支援を行うとともに、寄付文化の醸成を図った。	○		○
地域福祉・ボランティア推進課	地域福祉活動の推進	ふれあいコミュニティケアネット21事業	シルバー談話室等の集合型地域福祉活動と地域住民による個別支援活動(ケアネット活動)を通じて、誰もが安心して暮らし続けられる地域づくりを目指す21地区社協の活動に対し、活動費の補助を行った。	○		○
		ふれあい型の地域福祉活動支援	高齢者を対象としたシルバー談話室や在宅児とその保護者等を対象とした地区子育てサークルなど、地域住民のふれあいやつながりづくりを目的とした地区社協活動を支援した。	○		○
		ケアネット活動支援	あらゆる地域住民を対象に、声かけや見守り、身の回りのちょっとしたサポートを地域住民がチームになって行うケアネット活動を支援した。また、ケアネット活動では対応できないニーズを福祉専門職等へつなぐことや、福祉専門職等からのケアネット活動との連携を図った。	○		○

担当部署	分野	事業名 (◆重層的支援体制整備事業関連事業)	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
地域福祉・ボランティア推進課	地域福祉活動の推進	地区社会福祉協議会連絡会議の開催	市内21地区社協の取り組みの紹介や各地区で抱えている課題やニーズなどの情報交換を目的に連絡会議を開催した。(①8月7日、②11月20日、③3月26日)	○		○
		地区社協新任役員研修会の開催	令和6年度は、地区社協会長の交代が少なく、新任に限定せず、広く地区社協役員を対象に研修会を企画・実施した。(9月8日)	○		○
		地区社協トップセミナーの開催	地区社協の役員を対象に、今後の地区社協のあり方などを検討することを目指した研修会を企画・実施した。(1月25日・能登半島地震振り返りフォーラム)	○		○
		◆安心生活創造事業	あらゆる地域住民が役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる場や機会、福祉などの公的サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる地域共生社会を目指した地域づくりの支援を行った。		○	
		いのちのバトンの設置普及活動	救急搬送時や災害時に必要となる緊急連絡先や服薬情報などの情報を、あらかじめ自宅冷蔵庫に設置する「いのちのボタン」の設置・普及を地区社協とともに促進した。また、事業を通し、平時及び災害時に支援が必要な地域住民の把握を進めた。		○	
		福祉・防災マップ・避難行動要支援者リスト作成の支援 (原子力防災マップ等作成事業)	日頃の隣近所の支え合い体制強化の一環として、福祉と防災の情報を可視化できる「福祉・防災マップ」と、災害時の避難行動に支援が必要な住民の把握と支援方法、支援協力者を記載する「避難行動要支援者リスト」の作成を支援した。※UPZ圏内の地区は、富山県原子力防災マップ等作成事業内で実施した。		○	
		生活支援サービスの実施支援	住民のニーズに対応するため、地区社協等における生活支援サービス(買い物や移動等)の検討・実施、対象を限定しない居場所(拠点)づくりに関する取り組みの支援を行った。		○	
		地域福祉活動サポーター育成研修等の実施	社会的孤立状態(陥る可能性のある)にある市民や世帯を早期に発見し、地区社協や民生委員児童委員、行政や社協などの関係者へつなげる役割を担う地域福祉活動サポーターの育成研修を行った。		○	
		生活支援サービス車両提供事業	買い物支援や移動支援を実施する地区社協へ車両の貸し出しを行った。	○		
		◆参加支援事業	社会的に孤立している(する可能性のある)市民や、引きこもり等で社会から一定期間離れている市民を対象に、本人の居場所や将来的な就労を視野に入れた就労体験等の機会を創出し、社会の一員として役割が持てるよう、地域や民間企業等と連携した支援を行った。		○	
		◆生活支援コーディネーター設置事業	生活支援コーディネーターを1名配置し、高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において住民主体の多様な事業主体による生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを行った。		○	
		能登半島地震復興支援事業	氷見市社協令和6年能登半島地震緊急支援募金を活用し、地区社協が実施する復旧・復興に向けた活動に対して助成した。	○		
	ボランティア・市民活動の促進	ボランティア総合センターの運営	地域福祉活動、ボランティア・市民活動の普及・促進を目的に、ボランティア活動者支援、ボランティアコーディネート、ネットワークの構築、ボランティア情報発信、活動プログラムの開拓、出張講座、NPO法人設立支援、各種ボランティア調査を行った。	○		○
		ボランティア・市民活動相談 →ほっとねっとボラセン	地域福祉活動、ボランティア・市民活動に関する相談に応じ、専門機関と連携を図りながら解決に向けての支援を行った。	○		○
		ボランティア活動保険普及事業	ボランティア活動者が安心して活動するための保険の紹介と加入受付、保険請求事務を行った。	○		○
		ボランティア寄付の普及・管理・運用	誕生日ボランティア寄付やふるさとボランティア寄付の普及を図り、各種寄付の受付を行った。また、寄付積立金の運用としてボランティア・市民活動支援事業の企画・実施の検討を行った。	○		○

担当部署	分野	事業名 (◆重層的支援体制整備事業関連事業)	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
地域福祉・ボランティア推進課	ボランティア・市民活動の促進	ボランティアイベントの開催	一般市民へのボランティア活動の啓発と、情報発信及び新たな活動者の発掘と、交流を目的としたイベントを開催し、相談受付、ボランティア活動や団体紹介などを行った。(①9月21日②2月22日)	○		○
		テーマ型ボランティア養成講座の開催	令和6年能登半島地震や各地で頻発している豪雨災害を受け、被災地で活躍できる「技術系災害ボランティア」の育成を目的に講座を開講した。講師から技術だけではなく、技術系ボランティアとしての心得を学んだ。(①10月12日②10月13日③10月20日)	○		○
		ボランティア・チャレンジ・プログラムの実施	市内在住・通学中の中高生を対象に、福祉事業所及び地域活動、ボランティア団体の活動等にボランティアとして参加した。(7月29日～8月31日)	○		○
		★ボランティア・チャレンジ・親子介護体験プログラム (富山県介護の魅力PR事業)	将来の福祉人材確保の取り組みとして、小・中学生とその親を対象に、介護等体験を実施し、介護等福祉職の魅力を体感してもらった。(10月26日)		○	
		福祉教育推進体制の整備	市内教育機関、住民に向けた福祉教育セミナーの開催に向けて、市内小・学校の『総合的な学習の時間』や氷見高校の『HIMI学』のなかで地域と協働した福祉教育プログラムを立案し、実践した。	○		○
		福祉教育地域指定事業	氷見市ならではの地域ぐるみの福祉教育の実施を目指し、関係者との情報交換を行い、十二町地区で地域と教育機関(学童保育)が協働した福祉教育を実施した。	○		○
		地域サロン等活動支援事業	地域ボランティアによって運営されているサロンの活性化と、住民の身近なたまり場づくりを支援するため、地域のサロンに対してレクリエーション資材を貸し出した。	○		○
		遊休品バンクEくすちゃーEかすちゃーの実施	一般の市民や企業、福祉事業所等から寄付として受け付けた物資を生活困窮者や災害被災者など、緊急的に支援が必要となった市民に対して、必要最低限の食料品や衣類等生活用品を提供した。	○		○
		ボランティア総合センター運営委員会の開催	運営委員によるボランティア総合センター事業の分析・評価を行い、市民のニーズを的確に捉えた運営を行うために運営委員会を開催した。(7月、11月)	○		○
		施設等ボランティア担当者連絡会の開催	ボランティアを受け入れる福祉施設や関連施設等の担当者を対象に、ボランティア総合センターの役割、ボランティア受け入れの必要性を説明した。また、ボランティア団体に協力してもらい、「絵手紙作成」と「脳トレ体験」を行った。(6月20日)	○		○
		災害救援ボランティア・支えあいセンター整備事業	災害救援ボランティア・支えあいセンターの設置を通じ、災害からの復興に対応した。また、センター運営に必要な資機材を把握し、整備した。		○	
		災害ボランティアネットワークの構築	平時から市内ボランティア、関係機関企業などとのネットワークを構築し、災害時のボランティア活動及びボランティア活動者支援について検討した。また、「災害」を切り口とした地域理解や住民相互の支えあい体制を図った。	○		○
	その他	いきいき元気館の運営・管理 (指定管理者制度)	子どもから高齢者まで、幅広い世代の市民が健康や生きがいのために交流する場の運営・管理を行った。		○	
こども支援課	乳幼児・児童福祉	児童館の運営(指定管理者制度)	遊びや行事を通して、児童の健全な育成と豊かな情操を養うための支援を行った。また、氷見市の児童健全育成活動の拠点となるよう地域社会及び児童福祉関係機関等との連携に努めた。		○	
		地域子育て活動支援事業	地域における子育て支援環境の向上のため、地域の拠点に出向き、遊びの提供をしたり、運営上の相談に応じたりする等の支援を行った。	○		
		ファミリー・サポート・センター事業	保護者の緊急時、乳幼児の一時預かりをこども館きらら・いきいき元気館・育児ヘルパ・宅・利用者宅で行った。また、地域での子育て支援を行い、児童福祉の向上を図った。	○	○	
		事業所内保育所の運営	事業所の従業者や一般就業者の仕事と子育ての両立支援をすると共に働きやすい環境整備の一環として乳幼児保育を行った。		○	

担当部署	分野	事業名 (◆重層的支援体制整備事業関連事業)	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
こども支援課	乳幼児・児童福祉	乳幼児・子育て悩み相談 →ほっとねっときらら	乳幼児を持つ親を対象に、家庭、地域における生活上の悩みごとの相談に応じ、専門機関との連携を図りながら解決に向けての支援を行った。	○		
		学童保育サービス (放課後児童健全育成事業)	日中家に保育する者がいない小学生を対象に児童の預かりを行った。		○	
		子ども・子育て悩み相談 →ほっとねっと児童館	子どもや子育て中の親を対象に、学校・家庭・地域における生活上の悩みごとの相談に応じ、専門機関との連携を図りながら解決に向けての支援を行った。	○		
		子育て支援スタッフ育成・発掘 事業	子どもの健全育成のために地域ぐるみで子育てをする環境づくりを進めるため、子育て支援現任者のほか、子育てに関心のある者等を対象とした研修を実施し、子育て支援ボランティアの発掘・育成し、地域における多様な子育て支援の充実を図った。		○	
		フードパントリー事業	家庭で使用しない食品や、団体・企業等で様々な理由により販売できない食品等を寄付していただき、必要な人へ届ける仕組みをつくり、経済的に困窮する家庭の生活を支えるため、食品を提供する。潜在的に生活困窮に陥っている家庭を早期に把握し、適切な支援へとつなげた。	○		○
		学習・生活支援事業	貧困の連鎖を防ぐため、生活困窮世帯やひとり親世帯等の概ね小学校5年生から高校3年生を対象に、居場所を設け、生活する力の習得や学習意欲の向上を図った。(ふくし相談サポートセンターと協働で実施)		○	
高齢者支援課	高齢者福祉サービス	地域福祉総合相談 →ほっとねっと社協(再掲)	市民のあらゆる悩みごとの相談に応じ、必要に応じ関係機関と連携し、市民の生活課題の解決に向けての支援を行った。	○		
		ほっとヘルプサービス事業 (制度対象外のホームヘルプサービス)	公的サービスでは自立が困難な場合、家族に代わってホームヘルプサービスを有料で行った。	○		
		日常生活用具貸出サービス (介護保険対象外)	介護保険適用外の高齢者や障害者等に車いすを貸し出した。	○		
	介護保険事業	総合事業・居宅介護支援事業	要支援や要介護認定者の居宅サービス計画の策定及び連絡調整を行った。	○		
		総合事業・訪問介護事業	要支援や要介護認定者にホームヘルパーが自宅を訪問し、日常生活の援助を行った。また、寝たきりや車椅子利用の方が安心して通院できるように送迎サービスを行った。	○		
	障害児・者福祉サービス	障害者ホームヘルプサービス	常時介護を必要とする在宅の身体障害者に身体介護、家事援助、外出時における移動中の介護を行い、障害者の自立支援及び家族の介護負担の軽減を図る。	○		
障害者支援課	障害児・者福祉サービス	障害者相談支援事業 →ほっとねっと我家	相談支援専門員が、年齢や障害種別にかかわらずご本人やその家族の相談に応じ情報提供をしたり、問題解決のための調整を行った。		○	
		指定特定相談支援事業	原則18歳以上65歳未満の障害のある方の、意思を尊重し必要な支援を提案しながらサービス等利用計画を作成し、より自立した在宅生活ができるよう支援した。基幹相談支援センターと連携し、協議会に参画し人材育成を行った。	○		
		指定障害児相談支援事業	原則18歳以下の障害児やその家族の、成長発達に伴う生活の悩みや暮らし上の想いを受け、必要な支援を提案し支援計画を作成した。医療・教育・療育機関等との連携により医療的ケア児のサービスや福祉避難所の整備を行った。	○		
		多機能型障害者デイサービス	障害者が、生きがいを持って自立と社会参加ができるよう意思形成・決定のための支援を基本方針とし、通所支援の中で情報提供、生活指導、健康チェック、入浴、食事、レクリエーションなどのサービスを行った。	○		
		多機能型障害児デイサービス	障害児に日常生活における基本的な動作の指導、集団生活への適応訓練など5領域にわたり支援プログラムに基づいた支援を行い、障害児の主体性や社会性を育成した。	○		

担当部署	分野	事業名 (◆重層的支援体制整備事業関連事業)	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
障害者支援課	障害児・者福祉サービス	地域密着型通所介護事業	要介護認定者に身体及び精神機能面の維持に努め、本人及び家族支援などの目的を持って、送迎、健康チェック、入浴、食事、レクリエーションなどのサービスを施設にて提供した。	○		
		障害(児)者等通所入浴サービス	心身の障害や環境の障害などがあり、デイサービスや訪問入浴サービスの利用条件に満たない状態の時に、施設への送迎を行い、専用の浴槽を利用し入浴の機会を確保できる体制を整備した。	○		
ふくし相談サポートセンター	生活困窮者自立支援	◆生活困窮者自立相談支援事業	経済的困窮者や複合的な課題を持つ世帯を対象とし、相談支援業務を担当し、従来の福祉分野を超えた多職種で支援するためのマネジメント及び就労に向けた環境整備等を行った。		○	
		家計改善支援事業	収入(賃金や公的年金等)と支出のバランスが崩れることによって様々な生活課題を抱えている生活困窮世帯等を対象に、家計状況を整理するなど、収入と支出のバランスが保たれるような支援とともに、関係する生活課題の解決に向けての支援を行った。 ※生活困窮者自立支援制度内任意事業		○	
		学習・生活支援事業	再掲(こども支援課と協働で実施)		○	
		★アウトリーチ等の充実による自立相談支援の機能強化事業	アウトリーチ支援員を自立相談支援機関に配置し、社会参加に向けてより丁寧な支援を必要とする方に対し、一人ひとりが抱える課題に応じた支援の充実や生活支援の充実等によるセーフティネットの強化を図り、社会の担い手として活躍できるよう支援した。 ※生活困窮者自立支援制度内事業		○	
		生活困窮者等緊急生活支援事業	生活困窮者や緊急的な支援が必要な世帯を対象とし、必要最低限の食料品や衣類等生活用品の提供、住まいの応急的な補修・環境整備に要する資材の提供等、衣食住に対する支援を行った。	○		
	障害	◆基幹相談支援事業	障害児・者に対応する相談支援事業所が抱える困難ケースへのアドバイス及び介入をはじめ、人材育成・各機関とのネットワークづくりや市民の障害に対する理解促進及び当事者の権利擁護体制の構築等の環境整備を行った。		○	
	重層的支援体制整備	多機関の協働による包括的支援体制構築事業	多機関協働マネージャーを配置し、対象を限定せずすべての市民の福祉に関わる相談に対応すると共に、地域や包括的相談事業(地域包括支援センター、困窮、基幹、子育て世代包括等)が把握した「社会的孤立者」等の支援について、地域、専門職、行政が円滑に連携し支援できるようコーディネートを行う。また重層的支援会議等、各種会議を通して支援体制の強化に関する取り組みを行った。		○	
		アウトリーチ等を通じた継続的支援	氷見市が目指すセーフティネットの構築に関連し、①社会的孤立状態(陥る可能性のある世帯)を早期に発見し、関係者へつなげる担い手(地域福祉活動サポーター)や地区内での相談を受付ける場(地域なんでも相談)と連携し、該当する世帯への訪問活動を通じて、地域生活課題を解決するための支援へとつなげるアウトリーチ支援員を配置し、セーフティネットを強化した。		○	
		各担当部署◆印事業	◆事業参照		○	
SDGs推進室	福祉サービス利用支援	日常生活自立支援事業	認知症高齢者、知的障害者、精神障害者等判断能力が不十分な人が、安心して日常生活を送ることができるよう、利用者との契約に基づき福祉サービスの利用援助等を行った。		○	
		成年後見制度利用の支援	判断能力が不十分な人(認知症、知的障害、精神障害のある方)を対象に、財産管理や法律行為(契約や財産分割)を行うための成年後見制度利用を支援した。	○		
		生活福祉資金貸付事業	失業者世帯、低所得者世帯、障害者世帯、高齢者世帯と能登半島地震で被害を受けた世帯を対象に資金の貸付と必要な相談援助を行った。また、新型コロナウイルス感染症の流行により特例貸付を受けた世帯へフォローアップ支援を行った。対象に資金の貸付と必要な相談援助を行った。		○	

担当部署	分野	事業名 (◆重層的支援体制整備事業関連事業)	事業概要	財源		
				自主	受託	補助
SDGs推進室	施設管理	老人休養ホーム寿養荘の運営・管理（指定管理者制度）	能登半島地震により休館している寿養荘の管理を行った。		○	
		屋内健康広場の運営・管理（指定管理者制度）	市民が健康や生きがいのために交流する場の運営・管理を行った。		○	
プロジェクトチーム		地域福祉推進計画基盤強化プロジェクトの推進	人材確保・育成、情報管理、連携、ファンドレイジングの各プロジェクトチームを編成し、課題の整理及び課題解決に向けた取り組みを展開し市社協組織の基盤強化を図った。	○		
部会		職員のエリア担当制の実施	職員でチームを作り、それぞれ担当地域を訪問し、地域住民と共に生活ニーズの把握・解決のための支援を行った。	○		
		広報「ひみのふくし」の発行・充実	市民や関係機関等に地域福祉の最新情報など情報提供を行った。（全戸配布）	○		

事業活動の概要

I 総務企画課

1. 法人運営

(1) 役員会の開催

開催日	会議名	出席者数	協議事項
6月4日(火)	監査会	2	令和5年度事業報告について 令和5年度収支決算について
6月13日(木)	第4回理事会	理事 11 監事 2	議案第10号 令和6年度補正予算（案）について 議案第11号 令和5年度事業報告について 議案第12号 令和5年度決算報告について 議案第13号 次期監事候補者について 議案第14号 評議員候補者について 議案第15号 令和6年度定時評議員会の招集について
6月20日(木)	第5回評議員選任・解任委員会	3	議案第5号 評議員の選任について
6月28日(金)	定時評議員会	15	議案第14号 令和6年度補正予算（案）について 議案第15号 令和5年度事業報告について 議案第16号 令和5年度決算報告について 議案第17号 監事の補充選任について
3月27日(木)	第5回理事会	理事 9 監事 2	議案第16号 令和7年度事業計画及び予算(案)について 議案第17号 定款の一部変更について 議案第18号 給与規定の一部改正について(案) 議案第19号 臨時従業員就業規則一部改正について(案) 議案第20号 育児・介護休業等に関する規則の一部改正について(案) 議案第21号 こども館きらら（事業所内保育所）の休園について(案) 議案第22号 任期満了に伴う第三者委員の選任について(案) 議案第23号 令和7年度役員等賠償責任保険契約について(案) 議案第24号 令和6年度評議員会の招集について(案)
3月27日(木)	第9回評議員会	15	議案第18号 令和7年度事業計画及び予算(案)について 議案第19号 定款の一部変更について

(2) その他委員会の開催

開催日	会議名	出席者数	協議事項
12月19日(木)	表彰選考委員会	4	表彰、感謝状の贈呈予定者について
10月3日(木)	経営委員会	3	経営改善方針について

(3) 会長表彰、かがやき賞、感謝状贈呈式の開催

実施日	会長表彰	かがやき賞	感謝状	特別感謝状
1月25日(土)	個人6名	該当なし	個人4名、1団体	個人4名、11団体

※上記に加えて令和5年度表彰対象者の表彰も同時に実施した

(4) 広報「ひみのふくし」の発行

発行月	特集ページ	他内容
4月	被災者支援の取り組み（災害ボランティア・支えあいセンター周知）	令和7年度共同募金事業募集、いいね！地区社協「宇波地区社協」、能登半島地震緊急支援募金受付、ひみのわ運営メンバー募集、世界自閉症啓発デー、ホッとおしゃべりサロン告知、寄付受付
5月	地域福祉活動啓発（こども食堂開設「ひまわりカフェ（柳田）」、「なだうら食堂（宇波地区）」）	つながり続けるふくし（地区社協の被災者支援）、子育て家族応援講座募集、令和5年度予算、能登半島地震緊急支援募金受付、寄付受付
6月	市社協事業紹介（エリア担当メンバー紹介）	インクルーシブフェスティバル、「ひみのわ」告知、令和6年度予算、寄付受付
7月	地域福祉活動啓発（余川地区社協「余川なんでも相談の日」）	ボランティア活動啓発（おもちゃ病院たんぼぼ）、いいね！地区社協「朝日丘地区社協」、新入職員紹介、会費納入のお願い、ファミリー・サポート・センター案内、災害ボランティアセンター周知、寄付受付
8月	地域福祉計画重点施策啓発（ひきこもり）	出張ボランティアセンター告知、災害ボランティアセンター周知、児童館ボランティア募集、児童館利用案内、決算報告、寄付受付 他
9月	障害者雇用支援月間（当事者インタビュー）	被災後の見守り支援、技術系災害ボランティア講座告知、こどもまつり開催、福祉豆知識、フードドライブ啓発、成年後見制度等相談会告知、寄付受付
10月	地域福祉活動と防災（明和地区の取り組み紹介）	親子介護体験参加者募集、ボランティア・チャレンジ・プログラム報告、共同募金運動、おしゃべりサロン、24時間テレビチャリティー募金報告、寄付受付
11月	地域福祉活動啓発（朝日丘校区社協「あそぼうよ！ちびっこたち」）	こどもまつり、ひきこもり支援市民講座、市内新規事業所紹介、ひみのわ、児童館クリスマスまつりボランティア募集、ベルマーク寄贈報告、寄付受付 他
12月	障害者週間啓発（障害者のアート）	災害ボランティア講座、共同募金紹介、県社会福祉功労者表彰、障害者週間啓発、ボランティア団体紹介「氷見マジッククラブほほえみ」、児童館クリスマスまつり告知、寄付受付 他
1月	災害と地域福祉活動（震災から1年を振り返る）	上庄地区イルミネーション、ボランティア交流会、ふくし相談サポートセンター紹介、寄付受付
2月	被災者支援の取り組み（ボランティア団体さくら会（魚津市）からの寄付）	東地区社協福祉研修会、フードドライブ、市民講座告知、しごとサポーター養成講座告知、出張ボランティアセンター告知、我家医療的ケア児対応のお知らせ、成年後見制度等相談会告知、寄付受付 他
3月	被災者支援の取り組み（令和6年能登半島地震振り返りフォーラム）	市社協会長表彰等受賞者、ボランティア活動・保険案内、共同募金紹介、世界自閉症啓発デー、寄付受付

（５）第４次氷見市地域福祉計画、氷見市社協地域福祉推進計画の推進

第4次地域福祉計画及び地域福祉推進計画の推進のため、行政との事務局会議及び社協基盤協プロジェクトチーム（PT）による課題解決に向けた検討を行った。

①第4次氷見市地域福祉計画

月日	内容	アドバイザー
8月26日(月)	合同事務局会議 ・進捗確認 ・今後の方針 ・R7年度予算化について 他	日本福祉大学 学長 原田正樹 氏
3月3日(月)	合同事務局会議 ・進捗確認 ・重点施策、次期計画策定について 他	日本福祉大学 学長 原田正樹 氏

②氷見市社協地域福祉推進計画・組織基盤強化プロジェクトチーム（PT）

PT名	月日	主な内容	講師等
全体	3月3日(月)	地域福祉推進計画推進研修（再掲） 各PTの進捗報告と令和7年度に向けた提案	日本福祉大学 学長 原田正樹 氏
人材確保・育成	10月29日(火)	今後の計画、人事考課について	
情報管理	10月22日(火)	情報共有ツールの導入について	
	12月24日(火)	情報共有ツールの説明、活用について	合同会社HUGKUMI
連携	10月11日(金)	職員間の連携を進めるための資料作成について	
	12月20日(金)	取り組み内容の検討	
ファンドレイジング	10月21日(月)	今後の取り組み検討	
	12月5日(木)	ファンドレイジングに関する研修内容検討 本格実施に向け必要な準備	
	1月7日(火)	研修企画	(一社)日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET 理事長 久津摩和弘 氏

（６）福祉の魅力発信プロジェクト（富山県介護の魅力PR事業）

介護人材の確保に向け、若年層及び求職者層に対して介護の魅力を発信するため、小学生親子を対象とした体験会及び現役の介護事業従事者による座談会を開催した。

①ボランティアチャレンジ・介護体験プログラム

月日	内容	参加者	協力事業所
10月26日(土)	親子で介護体験in氷見 ・介護事業所職員による施設案内 ・介護機材紹介、車いす体験 ・食事介助体験、利用者とのレクリエーション ・職員への質問タイム	親子2組	NPO法人ヒューマックス グループホーム 島尾の家

②つながる氷見 福祉しごと座談会

月日	内容	参加事業所	備考
2月18日(火)	・市内介護保険事業所職員による座談会の開催 ・座談会の内容をインターネット上で公開 ・ダイジェスト版の発行・配布	4事業所 ①朝日山ケアセンター（介護福祉士） ②金沢医科大学氷見市民病院通所リハビリテーション（介護福祉士） ③はまなす苑氷見（介護支援専門員） ④氷見市社協介護計画センター（介護支援専門員）	記事掲載先 TomorrowWorks.

2. 地域福祉研修センター氷見

第4次地域福祉計画が目指す地域共生社会の実現に向け、市民・専門職等を対象に、各種研修等を開催した。
また、職員の資質向上のための研修を開催した。

(1) 介護サービス従事者研修の開催

開催日	内 容	社協内	他事業所
4月17日(水)	今年度の取り組みについて	23	0
5月15日(水)	職業倫理及び法令遵守とは	22	0
6月19日(水)	感染症および災害に係る業務継続計画（BCP）について	24	0
7月17日(水)	緩和ケアについて考えよう	29	12
8月19日(月)	ハラスメント研修（カスタマーハラスメント含む）	24	17
9月18日(水)	目から鱗！漏れないオムツの当て方～最新オムツ事情～	29	10
10月16日(水)	腸のはたらきと乳酸菌のチカラ	22	9
11月20日(水)	緊急時の対応方法	21	10
12月20日(金)	医療・介護施設での感染対策と地域連携について	15	0
1月22日(水)	音楽の力を生かしたレクリエーションを学ぼう	24	3
2月19日(水)	認知症及び認知症ケアに関する研修	29	13
3月19日(水)	子育て世帯訪問支援事業について、人権擁護について	17	0
合 計		279	74

(2) 市民講座「自分らしく、これからを生きる～相続～」

地域共生社会の実現に向け、市民一人ひとりが役割を持ち、いきいきと自分らしく豊かに生きていく事をテーマに、昨年度市民からの要望があった内容で公開講座を実施した。

開催日	テーマ	講師	参加人数
3月8日(土)	相続のこと、考えてみませんか？ ・相続登記の義務化と相続登記 ・相続の準備を知ろう ・相続土地の国庫帰属制度	司法書士法人谷道事務所 代表・司法書士 谷道 伸也 氏	44
3月15日(土)	相続に関する無料相談会	司法書士法人谷道事務所 代表・司法書士 谷道 伸也 氏 他3名	15
合 計（延べ）			59

(3) 4市合同地域福祉実践研究会

愛知県半田市、三重県伊賀市、長野県茅野市の行政及び社協の職員による合同研究会を開催した。

開催日	内容	参加人数	報告者等
1月25日(土)	【全体会】 開会あいさつ 氷見市社会福祉協議会会長表彰等式典 能登半島地震振り返りフォーラム 能登半島地震発生から今日を振り返る （報告、シンポジウム） 交流懇親会	96	能登半島地震発生から今日を振り返る 報告者・シンポジスト 氷見市福祉介護課 課長 栗屋正弘 氏 ふくし相談サポートセンター 事務局次長 山崎伸行 氷見市民生委員児童委員協議会 会長 澤武俊一 氏 地区社協連絡会議 副代表 畠中郁夫 氏 氷見市災害ボランティア・支えあいセンター 開上澁己 コーディネーター 日本福祉大学 学長 原田正樹 氏

1月26日(日)	【分科会】 分科会A「重層的支援体制整備事業と居住支援の実践～生活支援と連動した居住支援の環境整備～」 分科会B「防災・減災と地域福祉の関係～個別避難計画の策定について～」 分科会C「持続可能な地域を実現させるための住民主体の地域福祉活動の在り方とは」 分科会D「地域福祉における人材確保策を考える～介護人材・地域人材の確保について～」	92	分科会A ゲスト講師 都城市社会福祉協議会 報告 伊賀市、伊賀市社協 氷見市、氷見市社協 分科会B 報告 伊賀市、伊賀市社協 半田市、半田市社協 氷見市、氷見市社協 分科会C 報告 茅野市社協、半田市社協 分科会D 報告 伊賀市、伊賀市社協、 半田市、半田市社協、氷見市社協
----------	---	----	---

(4) その他の研修

①ひきこもり支援市民講座

開催日	内容	参加人数
9月23日(月)	氷見市でも相談が増加傾向にある「ひきこもり」について関係者及び市民の理解を深めるための講座を開催した。 講演 「ひきこもる心と向き合うために」 講師 筑波大学医学医療系名誉教授 斎藤 環 氏 対談 筑波大学 医学医療系名誉教授 斎藤 環 氏 真生会富山病院 心療内科部長 明橋 大二 氏	209人 内訳 当事者 8人 家族 44人 支援者 81人 市民 59人 不明 17人

②精神障害・発達障害者しごとサポーター養成講座

開催日	内容	参加人数	備考
2月18日(火)	講義 「共に働く上でのコミュニケーション方法」 講師 ハローワーク 職員 案内 基幹相談支援センターの紹介 講師 基幹相談支援センター職員	25	ハローワークと共働で職場における精神障害・発達障害者への理解を深める研修会を開催した。

(5) インターン・現場実習受け入れ

①社会福祉士資格取得実習

実習期間	実習生所属先	人数
1月27日～2月5日	東海医療科学専門学校	1

②介護支援専門員実務研修

実習期間	実習生所属先	人数
1月28日、29日、2月6日	グループホームすずらん	1

③インターン

実習期間	実習生所属先	人数
該当なし		

(6) 職員派遣

地域福祉実践報告依頼等に対して職員を研修講師等として派遣した。

派遣日	派遣先
5月9日(木)	氷見高校HIMI学
5月17日、9月24日	おらっチャ創生事業補助金選定委員会
5月29日(水)	障害支援区分認定調査員研修
6月4日、18日	高岡市生活支援コーディネーター研修
6月25日(水)	相談支援従事者基礎研修 ファシリテーション
7月3日～9月26日	相談支援従事者研修(初任研) ファシリテーション
7月23日(火)	志貴野ホーム災害対策研修
7月28日(日)	JDF地域福祉フォーラム
7月30日(火)	上市町宮川地区社協研修会
8月24日(土)	砺波市福祉健康大会(災害ボランティア・支えあいセンター実践紹介)
8月29日(木)	山口県内市町村社協役員職員研修
8月30日(土)	日本地域福祉研究所 CSWパワーアップセミナー
9月12日～14日	都城市社協職場内研修
9月13日(金)	富山県市町村社協職員連絡会 総会・研修(災害ボランティア・支えあいセンター実践紹介)
9月17日(火)	山形県庄内町社協災害ボランティアセンター設置運営訓練
9月19日(木)	KNBラジオ でるラジ(被災者支援の取り組み)
9月28日(土)	日本福祉大学通信教育部 講義
10月1日(火)	高崎健康福祉大学 講義「地域福祉」ゲストスピーカー
10月5日(日)	障害者ピアサポート研修(専門研修) ファシリテーション
10月10日(木)	富山県中学校教育課程研究大会(災害ボランティア・支えあいセンター実践紹介)
10月17日～12月18日(3回)	相談支援従事者研修(現任研) ファシリテーション
10月19日(土)	西条中学校学校祭「災害時の取り組み紹介」
10月19日、20日	日本地域福祉学会 東海北陸ブロック研究会
11月10日(日)	佐賀県有田町社協 社会福祉のつどい
11月11日(月)	佐賀県内社協災害研修「災害時の市社協の取り組み紹介」
11月19日(火)	南砺市井波地区老人会講演会「災害時の取り組み紹介」
11月30日(土)	茅野市社会福祉大会
12月9日(月)	香川大学シンポジウム
12月12日(木)	広島県被災者生活サポートボランティアセンター運営者養成研修
12月13日(金)	東海北陸ブロック生活困窮者支援従事者研修実践紹介
1月18日(土)	ファンディング日本2025
1月23日(木)	専門コース別研修 相談支援専門員 サービス管理責任者「意思決定支援」
1月24日(金)	富山県老協高岡ブロック研修
2月2日(日)	伊賀市社会福祉法人連絡会研修会
2月6日、3月2日～3日	相談支援従事者研修(主任研) ファシリテーション
2月10日(月)	都城市定例型重層的支援会議(実践報告)
2月21日(金)	相談支援専門員協会 圏域研修
2月21日(金)	氷見精神保健医療福祉関係機関実務者研修会
2月22日(土)	日本ボランティアコーディネーター研究集会inきょうと
2月25日(火)	石巻市重層的支援体制整備事業研修
2月28日(金)	災害救援ボランティアシンポジウム
3月4日(火)	黒部市地域共生社会推進セミナー
3月6日(木)	更生保護シンポジウム
3月8日(土)	日本ファンディング協会福祉チャプター 日本の地域福祉とファンディングフォーラム
3月10日(月)	向陵高校 メンタルヘルスセミナー
3月12日(水)	氷見高校 社会福祉実践授業
3月30日(日)	宝達志水町社協職員研修会

(7) 視察受け入れ

月 日	内 容	人数
9月12日(木)	射水市自立支援協議会「災害対策」	20
9月12日(木)	東村山市社協「災害時対応」	10
9月18日(水)	板橋区社会福祉協議会「災害時の取り組み」	7
11月15日(金)	羽咋市一宮地区「生活支援サービス」	14
1月29日(水)	福井県美浜町民生委員児童委員協議会	20
3月11日(火)	砺波市社協「学習・生活支援事業」	8
3月19日(水)	砺波市「重層的支援体制整備事業」	6

(8) 研修受け入れ

月 日	内 容	人数
該当なし		

(9) 氷見市社協職場内研修

開催日	内容	人数	講師等
6月1日(土)	令和6年度事業分析報告会	24	
1月25日～26日	4市合同地域福祉実践研究会（再掲）	29	日本福祉大学 学長 原田正樹氏
3月3日(月)	地域福祉推進計画推進研修（再掲）	15	日本福祉大学 学長 原田正樹 氏
①4月25日(木) ②5月27日(月) ③7月20日(土) ④9月27日(金)	被災者支援事業とファンドレイジング研修 ①災害振り返りとファンドレイジング研修 1 ②災害振り返りとファンドレイジング研修 2 ③ファンドレイジング研修 ④ファンドレイジング研修事後研修	計118	(一社) 日本地域福祉ファンドレイジングネットワークCOMMNET 理事長 久津摩和弘 氏
12月10日(火)	県社協地域福祉実践研究発表会プレ発表会	15	
①8月29日(木) ②10月24日(木) ③12月5日(木) ④2月20日(木)	社内事例検討会	①18 ②20 ③20 ④14 計72	事例提供 ①障害者支援課 ②高齢者支援課 ③ふくし相談サポートセンター ④こども支援課

(10) 都城市社協との人事交流研修事業

月 日	内 容	人数
2月6日～2月14日	都城市社協へ派遣	3
1月22日～1月29日	都城市社協より受入	3

Ⅱ 地域福祉・ボランティア推進課

「地域福祉活動の推進」

1. 地区社協連絡会議の開催

市内 2 1 地区社協の取り組みの紹介や各地区で抱えている課題やニーズなどの情報交換を行った。

日 時	内 容	出席地区数
8月7日（水） 13：30～	R5市社協事業報告・決算、R6事業計画・予算、災害ボランティア・支えあいセンターの現状と今後の被災者支援について、くらしを支える地区社協活動応援助成金(第2弾)の紹介、部会の進捗確認及び今後の進め方について 他	20
11月20日（水） 10：00～	地区社協と自治会の連携について、保育園・こども園・小・中学校との協働について 部会ごとの検討会 他	20
3月26日（水） 14：00～	能登半島地震より1年 これまでの地区社協活動と今後の取り組みについて、地区社協応援助成金の報告、部会ごとの検討会 他	20

第4次氷見市地域福祉計画の各施策項目の中から地区社協に期待される役割について実践する際の課題やノウハウを整理し取り組みを推進するため、地区社協連絡会議内に部会を設置し、検討した。

部会	主な取り組み・協議内容
地域住民が集える居場所づくり 部会	視察研修検討：実施時期、コース、内容、質問事項 11月15日(金)視察研修 いなづみ談笑室（稲積地区社協）
外出や買い物を支える生活支援サービス 部会	視察研修検討：実施時期、コース、内容、質問事項 11月15日(金)視察研修 宇波地区外出支援サービス（宇波地区社協）
地域における相談体制 部会	事例集の様式作成：様式案、事例集の方針決め
平時・災害時の個別支援活動 部会	情報交換の場づくり：参加対象者設定、テーマ決め、振り返り、次回予定 1月24日(土)氷見市地区社協トップセミナー+α企画

2. 地区社協トップセミナーの開催

地区社協の役員を対象に、今後の地区社協のあり方などを検討することを目指した研修会を実施した。（能登半島地震振り返りフォーラムと同時開催）

日 時	内 容	参加地区数
1月25日（土） 14:10～17:00	1. パネリスト報告「復旧・復興の現状紹介」 パネリスト 氷見市福祉介護課 課長 栗屋正弘 氏 ふくし相談サポートセンター 事務局次長 山崎伸行 氷見市民生委員児童委員協議会 会長 澤武俊一 氏 地区社協連絡会議 副代表 畠中郁夫 氏 氷見市災害ボランティア・支えあいセンター 開上滉己 2. シンポジウム「能登半島地震発生から今日を振り返る」 コーディネーター 日本福祉大学 学長 原田正樹 氏	8地区 25名

3. 地区社協新任役員研修会の開催

各地区社協の役員の方々に、地区社協の基本を確認していただくとともに、地区社協が実施している活動やその運営について、理解を深めていただくことを目的に研修を実施した。

日 時	内 容	出席地区数
9月8日(日) 10:00～12:00	1. 地区社会福祉協議会の歴史について 2. 地域総合福祉推進事業について 3. 安心生活創造事業・セーフティネット強化事業について 4. 情報交換（グループトーク）	8地区 13名

4. ふれあいコミュニティケアネット 2 1 事業

(1) ふれあい型事業

地区社協単位に、乳幼児から高齢者までを対象にしたさまざまな地域福祉活動を展開するとともに、地域の福祉力向上を目的とした研修や広報による啓発を行った。

対象（内容等）	実施地区数	内 容
乳・幼児	16	地区サークル支援、保育園の行事協力
児童	11	小学校や育友会等との連携による行事開催など
障害児・者	0	施設訪問、車椅子体験
高齢者	21	ふれあいランチサービス、シルバー談話室、配食サービス、高齢者の料理教室、敬老の集い、一人暮らし高齢者宅訪問など
世代間交流	1	三世代料理教室、三世代交流会など
広報活動	13	地区社協だよりの発行、地域住民への福祉啓発など
その他		各種研修（健康、生活関連）、福祉調査、地区福祉大会、県内地区社協との交流

(2) ケアネット型事業

地区社協単位に、1人（家族）で生活していくことが難しい乳幼児から高齢者までを対象に、地域住民が見守りや話し相手などできることで支援し、関連する会議や研修を開催し地域の見守りネットワークを構築・強化した。

①ケアネット活動実績

	令和5年度	令和6年度	前年度比
チーム数	813	838	103%
協力者数	1,987	2,036	102%
延活動回数	53,225	53,386	100%

②ケアネット活動内容

見守り、話し相手、買い出し、ゴミ出し、送迎、おすそ分け、地域行事への誘い出し 等

③ケアネット関連研修・会議開催実績

	実施地区数	内 容
研修	21	ケアネットの現状に関する専門的知識と今後のケアネットのあり方について、講師を招いたり、グループ討議をした。
会議	21	ケアネット当事者の情報交換と新たなニーズ把握について、協議した。（地区社協役員、民生委員、ケアネットチーム員等）

5. 職員のエリア担当制

市内4つのエリアそれぞれに対して担当する職員でチームを作り、地域住民と共に生活ニーズや地域状況の把握すると同時に、地区社協や小地域で行われるボランティア活動などの地域福祉活動が活発化するよう、担当地域を訪問し支援を行った。

(1) 職員の延地域訪問回数

エリア名	延訪問回数		主な訪問内容
	令和5年度	令和6年度	
氷見エリア	131	153	総会、集いの場訪問（広報取材・eスポーツ等）、研修サポート、個別支援体制の強化（福祉防災マップ&リストの更新、いのちのボタン更新）、地域福祉活動サポーター活動実績集計サポート、包括との情報交換会同席、なんでも相談窓口訪問、定例会議への同席等
南條エリア	148	203	
上庄谷エリア	61	127	
灘浦エリア	113	104	
合 計	453	587	
前年度比		130%	

6. 能登半島地震に伴う地区社協活動支援

能登半島地震で被災された地域住民に対して地区社協が行う活動を支援する『応援助成金』（1地区上限30万円）を設立し、共助による被災者支援を促した。財源は全国より寄付いただいた災害復興支援金を活用した。

実施地区	東、稲積、窪、十二町、神代、久目、宇波、女良	助成総額	2,400,000円
内容	被災者見守り訪問、被災者交流事業（歌謡ショー、食事会）、防災用品の購入・配布、復興サロンの実施及び環境整備、地区の防災体制構築に向けた勉強会 など		

7. 生活支援サービス車両提供事業（買い物支援サービス）

買い物や移動が困難な住民等に対して買い物支援や移動支援を実施する地区社協に対して車両の貸し出しを行った。民生委員児童委員や地域福祉活動サポーターの他地域のボランティアが運転手、介助員として支援するため、地区住民の変化や相談を受けたりできるよう支援した。

車両提供分	区 分	令和5年度	令和6年度	前年度比	
	回数	46	48	104%	
	利用者数	407	424	104%	
	サポーター数	48	48	100%	
寿養荘買い物支援分	区 分	令和5年度	令和6年度	前年度比	※R6年度は寿養荘の休館に伴い実施していない
	回数	151	—	—	
	利用者数	845	—	—	
	平均人数	5.5	—	—	

8. 安心生活創造事業・セーフティネット強化事業

(1) 要支援者の早期発見・把握機能の強化

地区社協単位で、災害時（避難活動時）に何らかのサポートを必要とする人の把握と支援体制整備を、「いのちのバトン」の設置普及活動及び、「福祉・防災マップ」「避難行動要支援者リスト」の作成を通して進めた。

①いのちのバトン設置状況

	令和5年度	令和6年度	前年度比
実施地区数	21	21	—
設置人数	4,324	4,408	102%
一斉更新実施地区数	6	4	67%
随時更新実施地区数	11	14	127%

②福祉・防災マップ等作成状況

	UPZ圏内	UPZ圏外
	13地区（84集落）	4地区（45集落）
マップ・リスト作成済み地区	加納(7)、稲積(4)、上庄(7)、明和(4)、速川(9)、久目(11)、余川(7)、碁石(6)、八代(6)、阿尾(4)、藪田(3)、宇波(7)、女良(9)	宮田（18）、十二町（10） 神代（6）、仏生寺(11)
	11地区（74集落）	3地区（31集落）
マップ・リストの作成・更新作業実施状況	加納(7)、上庄(7)、明和(4)、速川(8)、久目(11)、余川(7)、碁石(6)、八代(7)、藪田(1)、宇波(7)、女良(9)	宮田（12）、十二町（8）、仏生寺(11)

(2) 対象を限定しない生活支援サービスや居場所（拠点）づくり

住民のニーズに対応するため、地区社協等における生活支援サービス（買い物や移動等）の検討と実施、対象を限定しない居場所（拠点）づくりに関わる取り組みの支援を行った。

①継続し実施している取り組み状況

実施内容		実施地区
対象を限定しない居場所づくり		朝日丘、東、稲積、宮田、十二町、布勢、上庄、明和、速川、久目、余川、宇波、女良（13地区）
サ イ ジ ス 支 援	外出・移動の支援	朝日丘、仏生寺、宇波（3地区）
	学習支援の場	久目（1地区）
	多様な住民が参画できる 地域福祉活動の実施	稲積、女良（2地区）

(3) 地域における相談機能の充実を目指した取り組み

地域住民の相談や困りごと、情報提供などを受け止める「地域なんでも相談」の設置と、地域の支援や専門職等になが仕組みづくりの支援を行った。

①「地域なんでも相談」実施状況

実施形態	地 区
【常設型】 拠点・開催日を定め、月1回以上定期的に開設	継続実施：6地区 朝日丘、東、稲積、久目、上庄、余川
【行事併設型】 地域住民集う機会を活用し不定期に開設	継続実施：12地区 加納、窪、宮田、十二町、布勢、神代 明和、速川、藪田、八代、宇波、女良

(4) 地域福祉活動サポーターの育成

地域なんでも相談や地域福祉活動に関わりながら、地域住民からの相談対応に応じる人材として、地域福祉活動サポーターの育成を行った。

①新規育成研修の実施（全4回講座）

実施時期	受講人数	委嘱者数
5月8日（水）～5月29日（水）	31	29
3月13日（木）～3月26日（水）	8	7

※令和7年4月1日付け委嘱

②地区別育成研修の実施（2地区）

対象地区	実施時期	受講人数	委嘱者数
上庄地区社協	5月24日（土）、6月1日（土）	7	6
余川地区社協	11月23日（土）、12月14日（土）	12	1

9. 参加支援事業

参加支援コーディネーターを配置し、重層的支援会議で支援決定した要支援者に対し、必要な参加支援の場を提供できるよう、関係者とのネットワークの構築、新たな資源や支援の仕組みづくりを進めた。

相談実績	対象者実人数	3
	プラン作成件数	1

10. 生活支援コーディネーター設置事業

高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備を推進していくことを目的とし、地域において、生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを行うことを目的に、生活支援コーディネーターを1名設置した。社会資源調査やその可視化、新たな生活支援サービスの検討、多世代交流のためのeスポーツ普及、だれでも参加できるみんなの集いの場を昨年度に引き続き開催した。

(1) 生活支援コーディネーター活動状況

(回)

活動内容	令和5年度	令和6年度	前年度比
①地域のニーズと資源の状況の見える化と問題提起に関する業務	335	670	200%
②地縁組織等多様な主体への協力依頼などの働きかけに関する業務	50	151	302%
③関係者のネットワーク化に関する業務	93	175	188%
④目指す地域の姿・方針の共有、意識統一に関する業務	116	358	309%
⑤生活支援の担い手の養成やサービスの開発に関する業務	77	253	329%
⑥その他関連する業務及び個別ケースの同行訪問等	143	341	238%

(2) 社会資源紹介シート

市内の社会資源紹介シートを作成し、市内居宅介護支援事業所、地域包括支援センター地域窓口等に配布した。

エリア	令和6年度作成分			令和5年度 掲載分	シート合計
	新規掲載	内容更新	削除		
氷見	4	1	0	4	8
南條	2	1	2	7	7
上庄谷	2	1	0	6	8
灘浦	2	1	0	9	11

(3) eスポーツ体験（市社協職員による体験活動の支援）

体験：24回（22か所） 機材購入地区・団体：3か所

(4) 「ひみのわ」の開催

地域を問わず誰でも気軽に参加できる「ひみのわ」を開催した。

開催時期	内 容	会場	参加者数		
6月～3月 毎月1回 10:10～ 11:00 年間10回開催	①きときと100歳体操 ② e スポーツ体験 ③お楽しみ企画 ・笑いヨガ ・薬剤師の講義 ・スマホ相談会 ・ボッチャ体験会 ・特殊詐欺被害防止講義（警察） ・マジックショー ・健康相談、脳の体力測定 ・氷見市観光紹介クイズ ・健康相談 ・シルバー人材センター出張講座	ハッピータウン	R5年度	R6年度	前年度比
			75人	159人	212%
			サポーター数		
			R5年度	R6年度	前年度比
			17人	18人	+1人

「ボランティア・市民活動分野」

10. 氷見市ボランティア総合センター事業

(1) ボランティアコーディネーター事業

ボランティアの連絡調整・相談により、ボランティア活動への参加を促進し活動の振興を図った。

〈職員配置〉 ボランティアコーディネーター4人（所長含む）
〈開設状況〉 開館日：年末年始（12月29日～1月3日）を除く毎日 開館時間 午前8時30分～午後10時
〈運営委員会〉 年2回開催 委員数11名

年度		令和5年度	令和6年度	前年度比
相談状況	ケース数 合計	224	196	88%
	希望	63	39	62%
	依頼	94	88	94%
	相談	67	69	103%

※日常対応は含まない

(2) ボランティアネットワーク事業

ボランティア活動者に限らず、ボランティアを推進（受け入れ側）している機関の登録を行い、情報を共有し連携し合うことで氷見市のボランティア活動の普及・充実を図った。

＜新規登録数＞	＜登録者総数＞	＜支援機関・支援施設登録数＞
個人 2人	個人 316人	支援機関 14機関
団体 4団体（延48人）	団体 153団体（延6,675人）	支援施設 20施設

(3) ボランティア保険普及事業

ボランティア活動者が安心して活動できるための保険の加入受付事務を行った。

項目	令和5年度	令和6年度	前年度比
ボランティア活動保険（基本プラン）加入者数	995	1,578	159%
ボランティア活動保険（天災・地震保証プラン）加入者数	635	255	40%
ボランティア行事用保険加入件数	32	25	78%
ふれあいサロンの保険加入者数	7,854	9,076	116%
ボランティア活動保険適用件数	4	1	25%

(4) ボランティア情報発信事業

広報紙や各種メディアなどを通して氷見市民及びボランティア登録者へ情報を発信した。

・広報紙「ひみのふくし」への情報掲載
・登録者への郵送・メールによる情報提供
・行政チャンネルにて番組「ボランティアだより」を制作・放送
・新聞各社へのボランティア情報の提供
・SNSを活用した情報提供方法として①LINE、②Facebook、③Instagramの公式アカウントで情報発信

(5) 研修会への参加

職員の資質向上を目的に各種研修会に参加した。

・都城市社会福祉協議会 人事交流研修 ・市町村ボランティアコーディネーター研修
・令和6年度地域包括ケアとコミュニティソーシャルワーク研修 ・令和6年度東海北陸ブロック市町村社協職員研究集会
・災害救援ボランティアコーディネーター・リーダー養成研修会（基礎・実践）

(6) 福祉教育推進事業

幼児からお年寄りまで、地域の中で共に生きる力を育成するために様々なプログラムを実施した。

事業名（テーマ）	開催日時	参加者数	内容（テーマ）
ボランティア・チャレンジ・プログラム（V・C・P）	7月29日（月） ～8月31（土）	13人	市内の福祉事業所及び地域活動、ボランティア団体の活動等にボランティアとして参加。 対象：市内在住・通学中の中高生
ボランティア・チャレンジ・親子体験プログラム（再掲）	10月26日（土）	2組	将来の福祉人材確保の取り組みとして、小・中学生とその親を対象に、介護等体験を実施し、介護等福祉職の魅力を体感してもらった。
出張ボランティアセンター	5月9日(木) ～1月23日(木) 14:00～16:30 計5回	延べ25人	地域の探求実践者に学ぶ（HIMI学Ⅰ） 対象：氷見高等学校1年生 会場：氷見高等学校
	5月21日(木) ～2月5日(水) 14:00～16:00 計9回	延べ40人	HIMI学Ⅱ 対象：氷見高等学校2年生 会場：氷見高等学校ほか
	6月6日(木) ～2月20日(水) 13:30～15:20 計9回	延べ695人	氷見市立北部中学校「総合的な学習の時間」 対象：氷見市立北部中学校1～3年生 会場：氷見市立北部中学校
	8月2日（金） 14:00～15:00	27人	聴覚障害当事者との交流 対象：十二町学童1～6年生 会場：十二町小学校

(7) 各種ボランティア講座・研修開催事業

ボランティア個人・団体等のニーズに合わせた各種講座・研修を開催した。

事業名	開催日時	参加者数（内訳）	内 容
テーマ型ボランティア育成講座 「技術系ボランティア育成講座」	①10月12日（土） 13:30～15:30 ②10月13日（日） 9:00～17:00 ③10月20日（日） 10:00～12:00	受講者21名 内訳 男性：18名 女性：3名	令和6年能登半島地震や各地で頻発している豪雨災害を受け、被災地で活躍できる「技術系災害ボランティア」の育成を目的に講座を開講した。講師から技術だけではなく、技術系ボランティアとしての心得を学んだ。 ①技術系ボランティアの心得、資機材の紹介 ②実地演習（床下の泥出しのための床のはがし・復旧、壁の養生等） ③ふりかえり 講師 お寺災害ボランティアセンター 坂野文敏 氏 DRTjapanとちぎ 桑原誠 氏

ボランティアイベント 「出張ボランティアセンター」	①9月21日（土） 10:00～13:00 ②2月22日（土） 9:30～12:00 ハッピータウン氷見ショッピングセンター1階催事場	①来場者56名 高校生ボランティア 2名 ②来場者110名 ボランティア活動者 団体：4団体（29名） 個人：4名	ボランティアのすそ野拡大のため、ボランティア活動・団体に関する情報やボランティア体験の提供、気軽に取り組める活動の紹介を行った。また、活動者や団体が交流する場や日頃の活動成果を披露する場を設けることで、活動に対する意欲を高め、今後の市内ボランティアの活性化を図ることを目的に実施した。 ・ボランティア相談 ・遊休品バンクの紹介（寄付受付） ・市内ボランティア団体紹介（チラシ掲示） ・災害ボランティア活動のパネル展示 ・学生ボランティアチャレンジブース ・市内事業所製品贈呈（山里ふれあい塾、安靖氷見共同作業所、放課後等デイサービスころね、こもれびの里、美海ぐらんぶる～） ・白玉ぜんざいの販売（b-らいふ） ・わくわくつかみどり、塗り絵、風船プレゼント（氷見市共同募金委員会） ・ステージ発表（氷見マジッククラブほほえみ、藤の会）
------------------------------	---	--	---

（８）遊休品バンク「Ｅくすちゃー・Ｅかすちゃー」の実施

市民や団体等からの生活物品の寄付を受付、生活困窮者や災害被災者等の緊急的に支援が必要な対象者に必要な物資を提供した。

寄付（Ｅくすちゃー）		
項 目	令和５年度	令和６年度
寄付希望相談受付件数	44	24
受付物品数	325	121
物品	221	57
食品	104	64
受付不可物品等	4	12

受付物品の内訳

冷蔵庫、洗濯機、下着、布団、タオル、暖房器具、米、レトルト食品、缶詰等

提供（Ｅかすちゃー）		
項 目	令和５年度	令和６年度
提供依頼相談受付件数	44	31
提供物品数	834	268
物品（貸し出し含む）	674	105
食品	141	163
提供不可（延）	19	22

提供物品の内訳

洗濯機、冷蔵庫、電子レンジ、暖房機器、タオル、布団、下着、乾麺、アルファ米、レトルト食品等

(9) その他の関連事業

センターとしてその他継続事業を実施した。

事業名	開催日時	参加者数等
施設ボランティア担当者連絡会	6月20日（木） 13:30～15:00	参加施設 8施設 アンケート回答率 48/71施設（68%）
災害救援ボランティア整備事業	4月1日～3月31日	災害ボランティア・支えあいセンターの運営のための資機材の準備・環境整備等を行った。
サロン等活動支援事業	通年	30件 （サロン等で活用するレクリエーション資材の貸出）
ボランティア寄付金の受付	通年	4件

11. 災害ボランティア・支えあいセンター設置運営事業

令和6年能登半島地震からの復旧・復興を目指して、災害ボランティア・支えあいセンターを開設し、孤立・孤独の予防・早期発見を視野に入れた生活支援の把握を含めて、ボランティアによる支援、関係機関（行政等）と連携した支援を行った。

開設状況	内容
相談・活動者の受入：4月1日～3月31日	新規相談ケース数：108件（その他問い合わせ等270件）
	ボランティア事前登録者数：1,738名
	ボランティア活動者数：延952名

Ⅲ こども支援課

1. ファミリー・サポート・センター

(1) 会員の状況

①依頼会員数

	令和5年度	令和6年度	前年比
依頼会員数	824	780	95%

②協力会員数

	令和5年度	令和6年度	前年比
協力会員数	13	13	100%

③地区別会員数

エリア	協力会員数	依頼会員数
氷見	7	292
南條	3	317
上庄谷	3	72
灘浦	0	30
市外在住登録者	0	69
合計	13	780

(2) 利用状況

①場所別

(件)

利用場所	令和5年度	令和6年度	前年比
こども館きらら	59	22	37%
ヘルパー宅	0	0	-
利用者宅	0	1	-
その他（いきいき元気館）	64	124	194%
合計	123	147	120%

②理由別

利用理由	きらら	ヘルパー宅	利用者宅	その他	合計
・保育施設の保育開始前の預かり					0
・保育施設の保育終了後の預かり					0
・保育施設までの送迎					0
・放課後児童クラブ終了後の預かり					0
・学校の放課後の預かり					0
・冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の預かり				3	3
・買い物等外出の際の預かり	10			7	17
・兄弟姉妹の病気時の預かり					0
・兄弟姉妹の習い事時の預かり					0
・保護者の短時間・臨時的就労時の預かり	6			114	120
・保護者の求職活動中の預かり	6				6
・産前産後の安静時の預かり					0
・保護者の体調不良時の預かり			1		1
延べ利用者数	22	0	1	124	147

前記預かり状況内の病児・緊急対応強化事業による預かり	きらら	ヘルパー宅	利用者宅	その他	合計
* 回復期にある子どもの預かり	0	0	0	0	0
* 早朝（8:00以前）、夜間（18:00以降）の緊急預かり	0	0	0	0	0

（３）情報提供

広報紙「氷見の福祉」への情報掲載、各保育園・病院・市役所・各行政機関等へのチラシの掲示、配布を行った。

２．事業所内保育所事業

事業所の従業員の仕事と子育ての両立を支援するために乳幼児の保育を行った。

様々な状況に合わせた保育の場を確保するため、地域の保育を必要とする乳幼児の保育を行った。

（１）事業の概要

施設の種類	事業所内保育所
施設の名称	こども館きらら
施設の所在地	氷見市鞍川 9 7 5 番地
対象児童	児童福祉法及び子ども・子育て支援法の定めるところにより、保育を必要とする概ね0歳～2歳の児童
利用定員	満2歳の児童 3人（うち地域枠2人）
	満1歳の児童 3人（うち地域枠2人）
	乳児 6人（うち地域枠4人）
開所日・時間	月曜日から土曜日まで（日曜、祝日は休所） 7時30分～18時30分

（２）利用状況（月初め入所児童数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児												
1歳児												
2歳児	1	1										
計	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

３．氷見市児童館

（１）氷見市児童館事業

様々な遊びや体験活動を提供することで、子どもたちの健やかな成長を支援した。

定例行事の他、子どもたちと地域が結びつくことのできる行事を多く取り入れるなど、異世代交流にも力を入れた。

事業名	活動内容	協力者	開催回数	延参加者数
将棋教室	将棋の基本を学んだ。	氷見王将会	11	35
創作教室	竹や紙を素材とした工作活動を実施した。	氷見市児童クラブ連盟	9	53
お茶教室	日本の伝統文化に触れ、基本的な作法を習得した。	橋本良美 氏	8	28

①年間行事

事業名	活動内容/実施日	協力者	開催回数	延参加者数
地域ボランティア推進事業	地域体験活動（釣り体験） 7月28日（日）、9月15日（日）	児童支援ボランティア	2	20
	こどもまつり 9月22日（日）	児童支援ボランティア	1	331
	クリスマスまつり 12月14日（土）	児童支援ボランティア	1	178

②地域子育て活動支援

事業名	活動内容	協力者	開催回数
出張児童館	地域の拠点において、様々な遊びのプログラムを提供	登録ボランティア	13回
フードパントリー	経済的に困窮している家庭への食材支援 (6月、11月3月)	児童支援ボランティア	3回
こども食堂支援	ひみキトキトこども食堂ネットワーク事務局、こども食堂の周知、活動支援	各こども食堂スタッフ等	23回

③児童館利用状況

利用者区分	令和5年度	令和6年度	前年度比
幼 児	1,823人	1,218人	67%
児 童	7,768人	9,653人	124%
生 徒	273人	226人	83%
大 人	2,155人	1,450人	67%
合 計	12,019人	12,547人	104%
開設日数	322日	359日	

(2) 放課後児童対策事業

昼間保護者のいない家庭の児童を対象に、児童の保護や健全育成の向上を図るため、氷見市児童館の1室を利用して、保護者が帰宅するまでの間、指導員により、学習指導や遊び等を通して健全育成活動を行った。

対象児童	日中家に保護者のいない東地区の1年生～3年生(定員45名)、4年生～6年生(定員25名) ※H27年度より、2つの学童保育を実施・・・1～3年生(ファン)、4～6年生(ジャンプ)	
開設時間	月曜日から金曜日 午後2時～午後10時	土・日・祝日(長期休暇) 午前8時～午後8時
開設日数	平日 207日	土・日・祝日(長期休暇) 152日

学年別 登録者数	ファン				ジャンプ			
	1年生	2年生	3年生	合計	4年生	5年生	6年生	合計
	14	14	9	37	11	6	6	23

延利用者数	令和5年度	令和6年度	前年度比
	6,470	8,296	128%

活動内容	自主性・社会性・創造性の向上を図るため、遊びを中心とする活動の支援 ・読書 ・遊具を使った遊び ・軽運動 ・工作 ・異年齢交流活動(囲碁・将棋)等 ①遊びを通しての生活指導、健康管理と安全確保、小学校との情報交換会の実施 ②児童の活動状況の把握と家庭への連絡、親子活動の実施等 *活動場所: 児童館(ITワールド、こどもの城、工作室)・いきいきサロン、アリーナ(一部)
------	--

(3) 子育て支援スタッフ育成・発掘事業

地域ぐるみで子育てしやすい環境を作るため、子育て支援現任者や、子育てに関心のある者等を対象とした研修を実施することとで、地域における多様な子育て支援の充実を図った。

①子育て家族応援講座

日時	テーマ及び講師	参加者数
6月18日(火)	「タイル工作」 講師 星野建材 星野晴江 氏	39
6月20日(木)	「持続可能なこれからの氷見の学童づくり」 講師 富山国際大学 教授 村上満 氏	35
6月19日(水) 6月21日(金)	「普通救命講習Ⅲ」 講師 氷見消防署員	36
6月28日(金)	「保護者とのいい関係づくり」 講師 大阪大学大学院 名誉教授 小野田正利 氏	68
延参加者数		178

(4) 学習・生活支援事業

貧困の連鎖を防止するため、ひとり親世帯、生活困窮世帯、生活保護受給世帯、就学援助受給世帯等の子どもに対し、学習・生活援助を推進することを目的とし、該当世帯の子どもに対する学習・生活支援を行った。また、支援が必要な子どもや家庭に適切な支援が届くよう、関係機関とのネットワーク構築を図った。

事業名	活動内容	参加者数
D.Dスマイル塾	学習・生活支援の場を設け、週3回実施した。その際、「学習支援員」と生活支援を含めた学習のサポートをする「サポーター」を配置した。	16人(延781人)
お楽しみ交流会	調理体験、サバイバル体験、海釣り体験等	延73人

Ⅳ 高齢者支援課

1. 居宅介護支援事業

介護認定を受けられた方が、安心して自宅で生活できるよう、介護支援専門員が介護サービスの調整や相談に対応した。（介護支援専門員 5人）

（1）ケアマネジメント延件数

	令和5年度	令和6年度	前年度比
延利用件数	1,800	1,743	97%
実人数	232	237	102%
新規件数	74	46	62%
中止件数	37	54	146%

（2）要介護度別延べ利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
延べ人数	2	9	786	338	264	232	112	1,743
構成比	0.1%	0.5%	45.1%	19.4%	15.2%	13.3%	6.4%	100%

2. 訪問介護事業

ヘルパーが訪問し、身体介護や生活援助など、本人の意欲や能力を引き出しながら日常生活を支援した。（サービス提供責任者 5人 登録ヘルパー16人）

（1）要介護度別利用者数

要介護度	実利用者数（人）		令和6年度 構成比	利用者数 前年度比
	令和5年度	令和6年度		
要支援1	16	16	8%	100%
要支援2	32	37	18%	116%
要介護1	45	48	24%	107%
要介護2	27	31	15%	115%
要介護3	38	33	16%	87%
要介護4	22	23	11%	105%
要介護5	14	17	8%	121%
合計	194	205	100%	106%

（2）業務内容別集計

業務内容	利用回数		前年度比
	令和5年度	令和6年度	
身体介護中心	3,490	2,445	70%
生活援助中心	8,047	7,789	97%
身体生活	1,179	1,110	94%
通院等乗降介助	607	224	37%
合計	13,323	11,568	87%

3. 日常生活用具貸出サービス

介護保険外で特殊寝台や床ずれ予防マット、車椅子などの福祉用具を貸与した。

利用状況

利用者区分	延べ利用者数		前年度比
	令和5年度	令和6年度	
社協福祉サービス	384	345	90%
合 計	384	345	90%

4. 日常生活金銭管理サービス

訪問介護利用者の買い物代金の預かりなど、日常生活に必要な金銭管理を行った。（社協独自サービス）

	令和5年度	令和6年度	前年度比
実利用者数	24	26	108%

5. ほっとヘルプサービス事業

介護保険の訪問介護サービスを適用できない方が対象。

	令和5年度	令和6年度	前年度比
実利用者数	2	2	100%

6. 障害者ホームヘルプサービス

在宅の障害者宅にヘルパーが訪問し、日常生活を支援した。

	令和5年度	令和6年度	前年度比
実利用者数	15人	18人	120%
利用回数	602回	876回	146%
利用時間数	763時間	984時間	129%

	家事援助	身体介護	同行・通院
実利用者数	11人	3人	4人
利用回数	668回	196回	12回
利用時間数	754時間	196時間	35時間

V 障害者支援課

1. 障害者福祉センター

(1) 障害者総合相談

主任相談支援専門員が、年齢や障害種別にかかわらずご本人やその家族の相談に応じ情報提供をしたり、問題解決のための調整を行った。

①相談件数

障害種別	令和5年度	令和6年度	前年度比
身体障害者	88	89	101%
知的障害者	128	28	22%
精神障害者	982	995	101%
その他	22	16	73%
合計	1,220	1,128	92%

②相談実人数

障害種別	令和5年度	令和6年度	構成比
身体障害者	10	13	37%
知的障害者	3	5	14%
精神障害者	11	15	43%
その他	2	2	6%
合計	26	35	100%

③内容別相談内訳

内容	令和5年度	令和6年度	前年度比
福祉サービス利用に関すること	31	35	113%
障害や病状の理解に関すること	72	170	236%
健康・医療に関すること	149	153	103%
不安の解消・情緒安定に関すること	709	666	94%
保育・教育に関すること	6	12	200%
家族関係・人間関係に関すること	306	330	108%
家計・経済に関すること	8	8	100%
生活技術に関すること	29	49	169%
就労に関すること	2	3	150%
社会参加・余暇活動	24	18	75%
権利擁護	4	6	150%
その他	0	0	—
合計	1,340	1,450	108%

④計画相談支援

支援内容	令和5年度	令和6年度	前年度比
サービス利用・継続支援 (初めてサービスを利用する方の計画相談)	6	2	33%
サービス継続支援 (サービス利用のモニタリング)	10	6	60%
サービス利用支援 (サービスを変更したい方のための計画相談)	3	7	233%
合計	19	15	79%

(2) 障害区分認定調査

誰もが平等公平に障害福祉サービスを受けることができるよう、専門的な視点で、認定調査を行った。

①障害区分認定調査実人数

調査対象者分類	令和5年度	令和6年度	前年度比
施設入所者	18	15	83%
在宅者	12	16	133%
合計	30	31	103%

うち、県外1

(3) デイサービス

令和7年2月より、通所介護（介護保険事業）は共生型に変更した。同時に生活介護、放課後等デイサービスは障害福祉サービスの指定を受け、より専門的なサービスを提供できるよう体制を整えた。

①サービス別利用内訳

サービス	実利用人数			延利用回数		
	令和5年度	令和6年度	前年度比	令和5年度	令和6年度	前年度比
地域密着型通所介護	14	8	57%	794	645	81%
指定生活介護	14	12	86%	1,512	1,718	114%
指定放課後等児童デイサービス	4	5	125%	453	566	125%
通所入浴	1	0	—	5	0	—
障害児通所入浴	2	5	250%	128	149	116%
合計	35	30	86%	2,892	3,078	106%

(4) 介護度、障害区分別利用内訳

区分	実利用人数			延利用回数		
	令和5年度	令和6年度	前年度比	令和5年度	令和6年度	前年度比
要支援 1	0	0	—	0	0	—
要支援 2	0	0	—	0	0	—
要介護 1	3	2	67%	214	181	85%
要介護 2	3	2	67%	268	66	25%
要介護 3	5	3	60%	273	251	92%
要介護 4	1	2	200%	35	135	386%
要介護 5	2	1	50%	4	15	375%
介護合計	14	10	71%	794	644	81%
障害区分 1	0	0	—	0	0	—
障害区分 2	1	1	100%	237	254	107%
障害区分 3	3	4	133%	138	188	136%
障害区分 4	3	2	67%	284	303	107%
障害区分 5	3	3	100%	242	174	72%
障害区分 6	5	5	100%	611	799	131%
障害合計	15	15	100%	1,512	1,718	114%
総合計	29	25	86%	2,306	2,362	102%

VI ふくし相談サポートセンター

1. ふくし相談サポートセンターの運営

市庁舎内において、福祉介護課・子育て支援課・市社協が官民協働で行う福祉の総合相談支援窓口として、各課の申請や相談窓口で対応しつつ、「どこに相談すればよいかわからない」「制度を活用できない」、「重複する生活課題を抱えている」などの相談を市社協が対応した。

(1) 相談件数実績

		令和5年度	令和6年度	前年度比	構成比
新規相談件数		204	126	62%	100%
	当事者	51	34	67%	27%
	家族	26	19	73%	15%
	知人	3	3	100%	2%
	地域	40	16	40%	13%
	専門機関	49	32	65%	25%
	行政	35	22	63%	18%
相談実件数		965	1,036	107%	
延支援回数		5,854	5,374	92%	
	電話	1,802	1,580	88%	
	訪問	906	760	84%	
	来館	486	519	107%	
	その他	2,660	2,515	95%	
主訴終結ケース		139	48	35%	
主訴終結割合		14%	5%	36%	

(2) 相談内容内訳

主な相談内容（重複有）	令和5年度	令和6年度	前年度比
病気や健康	70	39	56%
障害	54	21	39%
介護	27	10	37%
子育て	19	6	32%
食べるものがない	7	5	71%
家族関係	44	26	59%
人間関係	9	3	33%
地域との関係	18	6	33%
収入・生活費	59	39	66%
住まい・家賃	34	19	56%
ローン・債務の支払い	11	13	118%
税金や公共料金等の支払い	11	9	82%
貸付に関する事	13	7	54%
保証人に関する事	2	1	50%
仕事探し、就職	22	13	59%
仕事上の不安やトラブル	6	6	100%
ひきこもり	14	6	43%
不登校	6	2	33%
DV・虐待	7	6	86%
その他	52	41	79%

2. 基幹相談支援事業

障害分野における相談支援事業所の個別支援計画作成支援や困難ケースへのアドバイス及び介入をはじめ、人材育成・各機関とのネットワークづくり等市内の障害に関する環境整備を行った。

(1) 相談件数及び支援時間実績

	令和5年度	令和6年度	前年度比
新規相談件数	69件	33件	48%
実件数	320件	336件	105%
延支援回数	3,402時間	2,901時間	85%
延支援時間数	1,481時間	1,341時間	91%

(2) 障害種別による新規相談件数

障害種別		精神	知的	身体	重複	難病	児童	不明	合計
実人数	令和5年度	30	6	9	1	0	6	17	69
	令和6年度	16	4	0	0	1	4	8	33
構成比(R6)		49%	12%	0%	0%	3%	12%	24%	100%

(3) 各種会議（部会）の運営

関係機関との情報共有を行い、障害者支援のネットワークづくり、サービスの開発・強化について会議を行った。

会議・部会名	主な内容
氷見市相談支援事業所連絡会（全14回）	日頃の相談業務で困難な事例についてアイデアを出し合い、氷見市に足りない支援について検討する。事例検討10回、他は研修会の情報提供や複数事業所による協働体制等について協議した。
就労支援連絡会（全5回）	事例検討の他、障害者差別解消・防災・感染症対策研研修会を開催し、資質向上や情報共有を図った。
氷見市障害者サービス調整会議（全4回）	医療的ケア児ガイドライン、避難訓練実施報告等、医療的ケア児の支援体制整備について情報共有を行った。

(4) 居場所づくり

事業名	主な内容
リカバリーカフェ	ピア・フレンズ（精神疾患を持ちながら地域の仲間を支える）が主体的に場を運営し、相談にのったり、テーマに沿った研修を企画した。年12回 毎回約15人参加。
レターカフェ	新型コロナウイルスの影響でリカバリーカフェが中止になったことをきっかけに「コロナ禍でもつながり続けられないか」と模索し、ピアフレンズのアイデアから「Letter Café」発刊。年6回、約730部発行。

(5) 各種研修会など

事業名	実施日	参加者数	主な内容
発達障害を理解する7days	振り返り研修 10月25日	16	・過去の研修受講者を対象とし、研修の振り返りと各事業所での取り組みを共有。 講師：（福）野の草会 こもれびの里 島田 佳尚氏、加納 勇介氏
	先進地見学 11月5日	10	・先進地見学を通して氷見市における発達障害支援について検討。 視察先：ロングラン（新潟県柏崎市錦町）

3. 生活困窮者自立相談支援事業

「生活困窮者自立支援制度」に基づき、経済的困窮者や複合的な課題を持つ世帯を対象に、相談支援業務を担当し、従来の福祉分野を越えた多職種で支援するためのマネジメント及び就労に向けた環境整備等を行った。

相談件数等実績

		令和5年度	令和6年度	前年度比
	相談件数総数	988	997	101%
	継続件数	826	895	108%
	新規件数	162	102	63%
延支援回数		4,163	3,841	92%
主訴終結件数		93	34	37%
内訳 (重複あり)	ケアプラン作成件数	9	14	156%
	支援調整会議の開催回数	4	3	75%
	就労支援件数	12	31	258%
	緊急食糧支援食品提供個数	372	1,154	310%
	住居確保給付金相談件数	2	1	50%
	生活福祉資金貸付相談件数	35	29	83%
	生活保護相談連携件数	7	3	43%

4. 家計改善支援事業

収入（賃金や公的年金等）と支出のバランスが崩れることによって、様々な生活課題を抱えている生活困窮世帯等を対象に、家計状況を整理するなど、収入と支出のバランスが保たれるよう支援を行い、関係する生活課題の解決を図った。

主な内容及び成果	令和5年度	令和6年度	前年度比
生活困窮者家計相談者数	76	72	95%
同家計支援者数	62	46	74%
延支援回数	361	356	99%
生活福祉資金貸付相談者数	35	29	83%
同貸付支援者数	12	4	33%

5. 生活困窮者等緊急生活支援事業

生活困窮者や緊急的な支援が必要な世帯を対象とし、必要最小限の食料品や衣類等生活用品の提供、住まいの応急的な補修・環境整備に要する資材の提供等、衣食住に対する支援を行った。

	令和5年度	令和6年度	前年度比
支援対象者数	37	43	116%

6. 多機関の協働による包括的支援体制構築事業

多機関協働マネジャーを配置し、対象を限定せず全ての市民の福祉に関わる相談に対応すると共に、地域や包括的相談事業（地域包括支援センター、困窮、基幹、子育て世代包括支援センター等）が把握した「社会的孤立者」等の支援について、地域、専門職、行政が円滑に連携し支援できるようコーディネートした。また、重層的支援会議等、各種会議を通して支援体制の強化に関する取り組みを行った。

（１）相談件数実績

	令和5年度	令和6年度	前年度比	
新規相談件数	47	25	53%	※令和6年度新規相談件数25件の内、11件が令和6年能登半島地震関連
当事者	2	5	250%	
家族	4	3	75%	
知人	0	0	0%	
地域	5	4	80%	
専門機関	20	7	35%	
行政	15	6	40%	
医療機関	1	0	0%	
相談経路				
継続相談件数	23	34	148%	
延支援回数	650	977	150%	
電話	168	253	151%	
訪問	133	130	98%	
来館	50	83	166%	
その他	299	511	171%	
支援内訳				

（２）セーフティネット関係会議への参画、研修参加

会議名	開催回数		内容
	令和5年度	令和6年度	
地域セーフティネット定例会議	8回	8回	市関係課職員及び市社協職員で構成し、庁内連携をスムーズに行うための情報共有や相談支援事例をととして連携体制のルールやセーフティネット構想の実現に向け協議・検討した。
地域セーフティネット構築会議	2回	2回	地域、専門機関、ボランティア団体等で構成、氷見市の包括的支援体制を目指し、社会的孤立や孤独に陥っている方（陥る可能性のある方）を早期に発見する仕組みなど実現に向けた取組について協議・検討した。 講師・アドバイザー 日本福祉大学 学長 原田 正樹氏
地域セーフティネット分科会	7回	12回	①ひきこもりの住民への支援体制の構築 2回 ②権利擁護（死後事務、身元保証人など） 3回 ③居住・居場所作り 2回 ④災害時の福祉環境の整備 2回 ⑤地域組織の維持 3回
セーフティー専門研修会	0回	2回	◎ひきこもり支援市民講座 9月23日（月）※再掲 ◎4市合同地域福祉実践研修会 1月25日・26日 ※再掲
重層的支援会議 （本人同意あり）	21回 （12人）	26回 （14人）	複雑化・複合化した支援ニーズを有する者やその世帯に対して、関係者を召集、情報共有をした上で、対応策の検討及び役割分担を行い、支援の方向性にかかる合意形成と、支援に向けた円滑なネットワーク形成を図った。
個別支援会議 （本人同意なし）	37回 （17人）	46回 （39人）	
地域会議	15地区 17回	13地区 14回	地区社協や民生委員児童委員の地区定例会等に訪問し、地区内で挙がっている個別相談事例を共有し、支援方法について検討などを行った。

7. アウトリーチ等の充実による自立相談支援の機能強化事業、 アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

アウトリーチ支援員を2名配置し、訪問支援機能を高めるとともに、地域や行政・専門機関と連携し、社会的孤立状態に陥っている（陥る可能性のある人を含む）人・世帯への支援を円滑に進めた。

（1）相談件数実績

		令和5年度	令和6年度	前年度比
新規相談件数		63	62	98%
相談経路	当事者	13	17	131%
	家族	4	6	150%
	地域	23	11	48%
	知人	0	0	—
	行政	12	11	92%
	包括ブランチ	1	3	300%
	介護支援専門員	0	1	—
	医療機関	0	3	—
	障害関連機関	4	2	50%
	県社協	0	0	—
	市社協	1	4	400%
	その他	4	4	100%

（2）相談内容内訳

主な相談内容（重複有）		令和5年度	令和6年度	前年度比
相談内容総数		161	155	96%
内訳	病気や健康	24	36	150%
	障害	17	14	82%
	介護	8	5	63%
	子育て	5	2	40%
	食べるものがない	3	4	133%
	家族関係	13	10	77%
	人間関係	5	6	120%
	地域との関係のこと	11	11	100%
	収入・生活費	21	21	100%
	住まい・家賃	10	11	110%
	ローン・債務の支払い	4	5	125%
	税金や公共料金等の支払い	5	5	100%
	貸付に関すること	1	1	100%
	保証人に関すること	1	1	100%
	仕事探し、就職	7	5	71%
	仕事上の不安やトラブル	0	1	—
	ひきこもり	6	6	100%
	不登校	2	1	50%
	DV・虐待	3	1	33%
	その他	15	9	60%

(3) 地域福祉活動サポーター活動状況

①地域福祉活動サポーターの委嘱及び活動状況

	上期	下期	R6年度末
地域福祉活動サポーター委嘱者数	—	—	128人
相談を受けたサポーターの人数	56人	70人	—
相談・情報提供の件数	249件	182件	—

②相談内容別件数（重複あり）

相談内容	件数
高齢者（介護）に関すること	48
高齢者（認知症・生活面）に関すること	102
障害に関すること	12
児童・生徒に関すること	5
家族関係に関すること	14
地域・近隣関係に関すること	44
暮らしに関すること	57
ひきこもりに関すること	10
その他	178
合計	470

③対応内容別件数（重複あり）

対応内容	件数
話を聞くことで済んだ	211
地区社協で対応した	11
民生委員の協力を得て対応した	58
自治会の協力を得て対応した	24
サポセンへ相談・情報提供した	5
サポセン以外へ相談 相談した専門職・機関 消防署、包括地域相談窓口、ケアマネジャー、 ボランティアセンター（ボランティア団体）、議員、期成会	6
合計	315

④地区社協等における地域福祉活動参加状況（重複あり）

内 容	人数
ケアネット活動の協力	148
なんでも相談会の協力	51
ふれあいランチなど高齢者の集いの場の協力	144
配食やいのちのバトンの配布など個別訪問活動の協力	133
きときと100歳体操（地区社協主催）の協力	73
子育てサークルなど、子育て支援	54
住民の集いの場（サロン活動）	79
その他（会合出席、マップ作成等）の活動	154
合計	836

Ⅶ SDGs推進室

「福祉サービス利用支援」

1. 日常生活自立支援事業

		令和5年度	令和6年度	前年度比
問合せ件数		4	4	100%
初期相談件数		2	3	150%
相談援助件数		375	322	86%
契約締結件数	前年度未利用者数	10	8	80%
	新規契約者件数	1	3	300%
	契約終了者件数	3	2	67%
	年度未利用者数	8	9	113%
生活支援員	登録者数	7	7	100%
	延活動回数	131	108	82%

2. 成年後見制度利用の支援

	令和5年度	令和6年度	前年度比
実利用者数	1	3	300%

3. 生活福祉資金貸付事業

(1) 本則における相談実績

	令和5年度	令和6年度	前年度比
相談実人数	49	35	71%
相談延回数	87	114	131%
貸付申請件数	21	5	24%
貸付決定件数	21	5	24%
貸付不承認件数	0	0	0%

(2) 新型コロナウイルス感染症における特例貸付債権管理の相談実績

相談実人数	14人
相談延回数	22回

Ⅶ. 施設管理（指定管理者制度）

1. 寿養荘の運営・管理

利用者状況

	令和5年度	令和6年度	前年度比
利用者数	4,503	0	0%

※能登半島地震により令和6年1月から休館のため利用なし。令和6年度末をもって指定管理終了。

2. いきいき元気館の運営・管理

利用者状況

	令和5年度	令和6年度	前年度比
利用者数	29,904	18,421	62%

3. 屋内健康広場の運営・管理

利用者状況

	令和5年度	令和6年度	前年度比
利用日数	183	210	115%
利用者数	3,534	4,536	128%
利用コート数	303	323	107%

※令和5年度は7月から受託